

# ひだかの魅力 再・発・見

大切なのは相手の思いを  
尊重すること

今回の「ひだかの魅力再発見」は、令和5年度全国中学生人権作文コンテスト埼玉県大会で、最優秀賞を受賞し、第42回全国中学生人権作文コンテスト中央大会で、奨励賞を受賞した小倉瑠子さんをご紹介します。

## 県大会で最優秀賞、 全国大会で奨励賞を受賞

私は、言葉を発する時に一つの音を伸ばして言うことがあります。これは吃音というもので日本には120万人ほどいると言われています。しかし、私の身近には吃音の人がいないので、吃音について知っている人が少ないため、一人でも多くの人に吃音について知ってもらいたいという想いで作文を書きました。私の場合、特に母音から始まる言葉で吃音が出ます。そのため「ありがとう」という言葉が滑らかに言えないことがあります。そのことを私はコンプレックスに感じていましたが、同級生が吃音に対して理解し、から



小倉瑠子さん(高麗川中)

かいから守ってくれたことがありました。この経験から「ありがとう」と自信を持って言えるようになりたいとより強く思うようになり、努力しています。吃音は障がいであると思っている人が多く、そのことで人話をしづらいつと感じる時があります。吃音を正しく理解し個性として受け止める人が増えれば、吃音のある人がもっと幅広く自分の声を出すことができ、自分の考えを発信していけると思います。

吃音がある人もない人もみんな同じ人間なので、お互いを認め合いコミュニケーションが広がる社会になったらいいなと思っています。



栄えある各1位に聞きました！

### 優勝の秘訣は？



5 km中学生男子の部  
室越結仁さん



3 kmファミリーの部  
信田雄一さん  
高志さん

わが家の愛撮る

お子さんの写真を掲載しませんか？  
電子申請で簡単に投稿できます。



大塚 耕ちゃん(2歳6か月)



渡辺 磨ちゃん(1歳3か月)

### 編集室

2年間務めてきた広報担当を、今月号をもって離れることになりました。広報作成ソフトを1から学んだり、取材を通して市民カメラマンの皆さんにカメラの使い方を教えてもらったり、広報担当としては初の試みであるインスタグラムを使ったフォトコンテストの開催に携わったりなどいろいろなることを学んだ2年間でした。

ここで学んだことを生かして別の場所でも頑張りたいと思います。(1)